
真夜中の物書き

シラス

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

真夜中の物書き

【Nコード】

N4596T

【作者名】

シラス

【あらすじ】

小説を考えていて、よく頭に浮かぶのは自分の将来だったりするのでは…

これも何かの糧になる。そう信じて今宵も親指を動かす。暗闇に浮かぶ画面には思想の欠片が散りばめられる。

ふとした瞬間に我にかえる。何のためにこんなものを積み重ねているのか。志す夢を実現するためか。多くの読者を持ちたいためか。自分の標を立てるためか。愛する人に捧げるためか。

本業で疲れた身体にとって、この時間は冷たい緑溢れる泉のようでもある。乾いた風舞う砂漠のようでもある。

これは何なのか。私は誰なのか。何度も繰り返した自問自答が脳裏に生まれる。答えが用意されているなら半分だけ見てみたい。そんな気持ちはぬるま湯のように全身に広がる。

もつと緻密に、もつと自由奔放に。鋭さと柔らかさ、静と動。いつも揺れる2つの事柄の間には、最も恐れる「普通」の2文字。いつも和紙のように洗練された薄さを目指すべき世界、なのだろうか。

疑問は絶えず、ふと気付く。ここはもしかしたら最も自分が嫌う世界と同類なのでは、と。そして暗く静かな書斎の中で、また己の浅はかさに頭を抱える。

何度も行われたこの過程、乗り越えたから今私はここにいる。まだ山を登り続けるのか。移ろいやすい空模様ではあるが、引き返すにはまだ早いと、遙か彼方まだ見えぬ頂を見上げ、歩を進めることにしよう。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4596t/>

真夜中の物書き

2011年10月5日05時08分発行